

With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

vol.31

2014.6/1

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1
TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812
E-mail:takamoriso@bj.wakwak.com

発行者 高森荘施設長 入野友宏

高森荘からの情報発信 ウィズ



山吹ふれあい広場

毎年恒例となった『山吹ふれあい広場』に今年も参加させて頂きました。

地域の皆様、園児とのふれあいは私達も楽しみにしています。

今年は、感謝の気持ちを込めて『サザエさん』の歌を歌いました。

ある日の高森荘

調理員の気持ち

宮内あゆみ

木々の緑も色鮮やかになってきた今日この頃、献立に旬のご飯やたら芽の天ぷら等が出ます。旬の食材を使い、採れる時期に食べるからこそ、よりおいしく感じられる。高森荘では、旬の食材を取り入れる事で食事から四季を感じられるように提供しています。

利用者さんの高齢化、障害の重度化に伴いペースト食等、食形態が多様化してきています。また、アレルギーや嫌いな食材に関しても代替えで対応しています。

きざみ食やペースト食の場合、普通食と同じ献立であっても、違う献立のように見えてしまいます。しかし、食事は楽しみの1つであり生きていく為に必要なもので、味覚だけではなく、他の感覚でも『おいしい』と感じて頂けるような食事を作れるよう、日々努力していきたいと感じています。

平成25年度事業の実施概要

1、生産活動

●生産活動の総収益は昨年度とほぼ同水準の約400万円。「働く」ことを希望する通所利用者の皆さまを中心に年間を通じ工賃支給。支給決定は介護保険法の適用が優先、「生産活動」の提供は、障害福祉固有のサービスとして引き続き当施設のセールスポイントです。

2、医療系サービスの増加

●加齢また原疾患を起因とする疾病や生活習慣病的な疾患等で、受診機関や診療内容、服薬等が多様化複雑化、ほぼ毎日の通院が必要となる。入院については、のべ対象者数23名、入院期間のべ713日。

3、地域生活移行

●聴覚障害者のグループホーム設立に伴い入居する。ご本人様の長年の夢「地域生活移行」の実現は喜ばしい限りです。

4、松川事業所

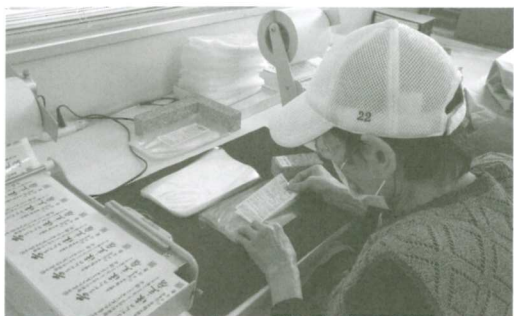
●旧体系からの体制を見直し、利用される方の居住地別に事業所を整理。人員の不均衡解消、本所と二体化した運営を心掛ける。

5、職員研修

●勤務年数の浅い職員が増え情報の共有化を意図し、県の「キャリア形成訪問指導事業」を活用した施設内研修(年間16回)に力を入れる。

6、リスクマネジメント

●利用者の方の転倒事故や誤嚥、徘徊(離設行為)等が増加しその対応策に追われる。特に歩行や移動・移乗が自



立している方の転倒が急増し、転倒・転落の委員会を立ち上げ緊急対策を講じた。「ヒヤリハット:事故報告書」の精度を高めるとともに、報告書、即カンファレンスを励行し、その場で防止策を打ち出すことにも努める。

7、夜勤2名体制

●入所利用者の高齢、重度化に伴い、医療系サービスや介護業務が増大。これまで継続してきた、生活支援員+管理宿直員では限界になる。夜勤2名体制構築の前段と位置づけ、生活支援員2名を増員し勤務シフトの在り方等の検討を図った。

8、感染症対策

●感染症対策委員会を中心として早期に取り組みを開始。専門家を招いての研修会の実施と対策マニュアルを全面改訂する。2月から年度末にかけては松川事業所を本所に統合。予防策を実践してきた甲斐ありインフルエンザ等感染症の罹患者は皆無となった。

①職員の接遇に関するもの	1件
②サービスの質・量に関するもの	—
③事故、被害、損害に関するもの	—
④事業所運営等に関するもの	—
⑤契約内容に関するもの	—
⑥事業所の建物の構造に関するもの	—
⑦利用者間のトラブルに関するもの	2件
⑧その他	—
合計	3件

平成25年度苦情解決の結果

講演会「高齢者介護と住まい」

(講師) 熊谷仁志氏
(講師) 菊かふね 代表取締役

介護保険事業を手広く展開される熊谷氏をお招きし、施設の利用方法や待機者の現状等をお話しいただく。入所利用者の方は



体系移行に伴い介護保険適用除外施設となり被保険者にはならない。高齢化が進行するなか、介護保険制度や障害福祉との違いを知る絶好の機会になりました。



忘年会 12/20

毎年恒例の忘年会在盛大に催されました。ステージを豪華に飾りつけ、楽しい雰囲気の中で、豪華な料理に舌鼓し、利用者さんによるカラオケで美声を披露して頂き、耳も幸せに。そして、職員が各班に別れ、趣向を凝らした出し物を披露。目も幸せになりました。



一年を締めくくる会として、笑顔あふれる会でした。

節分 2/3

高森荘に鬼があらわれた！
高森荘では毎年、節分行事として鬼に豆を投げ追い払う事で福を呼び込んでいます。手作りのお面と棍棒を手にした鬼が園内を歩き、利用者さんに襲い掛かります！



皆さん手にした豆を投げ、大きな声で「鬼は外。福は内。」邪を払い無病息災を願いました。見事鬼を退治した後、ボランティアで来て頂いた老人クラブの皆さんと、食堂で食事をしながら、カラオケや合唱を楽しみました。

双葉会交流会 1/29

年2回交流会で素晴らしいステージの発表を披露してくれる、ボランティアサークル双葉会の皆さん。高森荘との交流は早いもので、今回で5年目を迎えました。



演目も様々で利用者を巻き込んで行うマジックショーやハーモニカ、オカリナの演奏。なぜか利用者に笑顔がこぼれる南京玉すだれ、さらに前回から新しく加わった迫力満点のスコップ三味線等、毎回進化したステージ発表を高森荘へ届けてくれます。

期待しています！

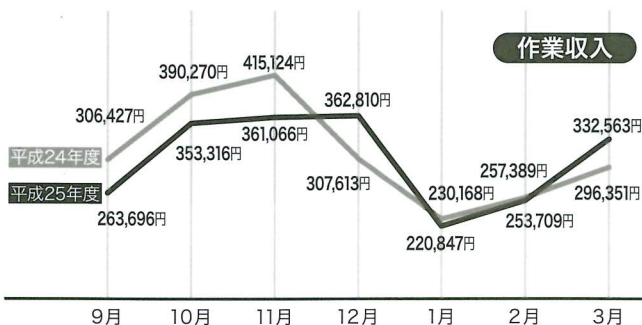
利用者代表 小澤 四朗

双葉会様には年二回の公演で心をなごまされていきます。最初の頃と違い一人一芸ではなく二芸三芸をこなす人もいます。また最近ではスコップ三味線など新しい分野にも挑戦し、おどろきですし、頭が下がります。これからお体と相談して芸を磨き楽しい双葉会を私達に見せてください。活躍を祈ります。



今年初年から、各取引先企業様のお力添えもあり、新商品の入荷や、定番商品の発注等、作業量も多く、特に観光シーズン前には作業時間の延長をしながら取り組んでいます。おかげさまで例年に比べ収益も増益傾向にあります。一年の半分が過ぎ、順調に稼働していますが、年間を通じて皆さんに安定した仕事量の供給が行えるよう、今後も努力していきます。

生産活動



授産から生産活動に変わっても、利用者の皆さんは、日々の活動を「仕事」として真剣に取り組んでいます。作業開始30分前から廊下には列が出来、皆朝礼の準備をし、プライドを持って活動されています。そんな利用者さんから「もっと仕事したい」と要望があり、生産活動の担当係員が企業訪問を行いました。突然の訪問にも関わらず、忙しい時間を割いて面談をして下さり、ありがとうございました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

歳末慰問

- 12月12日/阿智村民生委員会 4名
- 12月13日/売木村民生委員会 6名

2013年12月~2014年5月行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



折り紙教室



忘年会

12/2 利用者・保護者交流会
保護者17名

12/9 一日園長
山吹区長 安藤重臣様

12/19 忘年会

12/24 柚子湯

12/26 おやす作り
上平老人クラブ8名



節分

双葉会交流会 1/29

節分 2/3

龍口老人クラブ8名

かふね社長講演会 2/26

山吹ふれあい広場 3/4

利用者12名

春季火災避難訓練 3/27



一日園長



春季火災避難訓練



出張スポーツ教室



山吹ふれあい広場

編集後記

山々の木も青々と茂り、ここから見える景色も新緑に染まってまいりました。職員の採用や退職、異動もあり、高森荘にも新しい風が吹いています。

最近の高森荘内では、庭の

花壇にきれいな花を植えたり、ミニトマトを植えたりして楽しむ姿が見られます。さて、これから本格的な夏がやってきますね。

今年も熱中症など心配されますが、利用者さんと職員が丸となってこの夏も乗

職員異動

〈異動〉		〈退職〉		〈採用〉	
3月31日 (慈恵園)	支援課長 橋都松夫	12月31日付	看護師 小倉ひろみ	1月1日付	看護師 勝又亮一
4月1日付 (高森荘)	生活支援員 加藤義和	3月31日	看護師 山田久子	2月1日付	看護師 瀬古富喜枝
	生活支援員 水野 篤		運動担当 横井啓二	4月1日付	生活支援員 所澤里佳
	生活支援員 木村光治		看護師 田平智美		生活支援員 工藤裕美

り越えていきたいと思えます。毎年のように最高気温が更新されていますが、そんな暑さに負けないように、私たち高森荘も年を重ねることに元気にやっていきたいものです。